



ベルボン製品を正しく安全にお使いいただくために

安全上の
ご注意



必ずお守りください





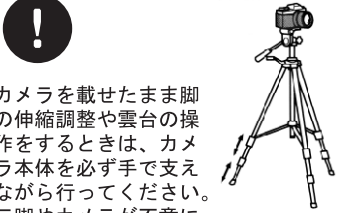

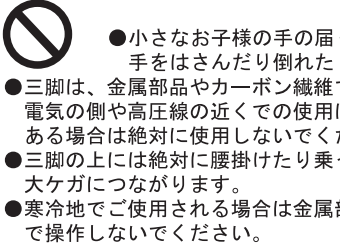
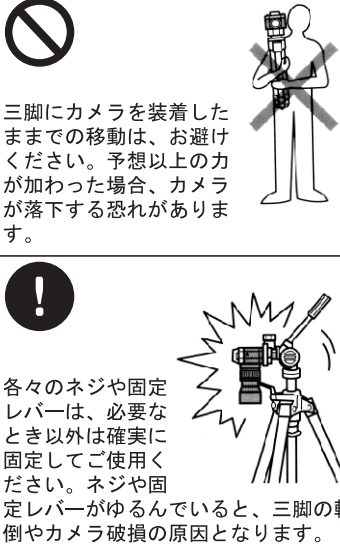
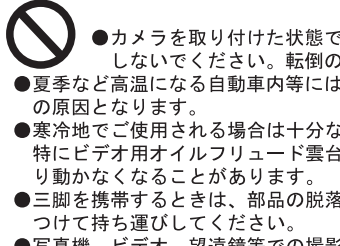
お使いになる人や他の人への危険、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

| | |
|---|---|
|  警告 | この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。 |
|  注意 | この表示の欄は、「傷害を負う可能性・または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。 |

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

| | |
|---|-------------------------------|
|  | このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。 |
|  | このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。 |

|  警告 | |  注意 | |
|---|--|---|--|
|  | スパイク付石突を備えた三脚を持ち運ぶときは、安全のためスパイクを出さないでください。死亡や大ケガの原因となります。 |  | 脚を開閉するときは、十分に注意してください。あやまって指をはさむとケガにつながります。慌てずによく確かめて操作してください。 |
|  | カメラを載せたまま脚の伸縮調整や雲台の操作をするときは、カメラ本体を必ず手で支えながら行ってください。三脚やカメラが不意に動き、カメラを破損したり手を三脚にはさみケガをする恐れがあります。 |  | ぐらついた台の上や傾斜面など、不安定な場所で使用する場合は十分に注意してください。特に高位置での使用の場合、頭や足の上などに落下すると、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。 |
|  | <ul style="list-style-type: none"> ● 小さなお子様の手の届く所には、設置・保管しないで下さい。手をはさんで倒れたりして、ケガをする恐れがあります。 ● 三脚は、金属部品やカーボン繊維で構成されておりますので通電します。電気の側や高圧線の近くでの使用は避けてください。また、落雷の恐れがある場合は絶対に使用しないでください。 ● 三脚の上には絶対に腰掛けたり乗ったりしないでください。転倒し死亡や大ケガにつながります。 ● 寒冷地でご使用される場合は金属部が凍結する恐れがありますので、素手で操作しないでください。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ● 三脚にカメラを装着したままでの移動は、お避けください。予想以上の力が加わった場合、カメラが落下する恐れがあります。 ● 三脚の自重の2倍を超えるカメラの使用は、安定性を損ないますのでお避けください。カメラブレの原因となったり、三脚が転倒する恐れがあります。 ● 三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の補給はしないでください。十分な性能が発揮されなくなる場合があります。 |
| | |  | <ul style="list-style-type: none"> ● カメラを取り付けた状態で、不安定な場所に放置したり立てかけたりしないでください。転倒の恐れがあります。 ● 夏季など高温になる自動車内等には放置しないでください。オイル漏れや故障の原因となります。 ● 寒冷地でご使用される場合は十分な性能が発揮されない場合があります。特にビデオ用オイルフリード雲台では、パン・ティルトの動作が重くなったり動かなくなることがあります。 ● 三脚を携帯するときは、部品の脱落防止のため各々のネジ等を、しっかり締めつけて持ち運びしてください。 ● 写真機、ビデオ、望遠鏡等での撮影・観察以外の目的で使用しないでください。 |

お手入れについて

- ご使用後は、必ず湿った布で汚れを拭きとった後に、乾いた布でよく拭いて保管して下さい。特に海岸および温泉地でのご使用後は、そのままの状態では放置すると錆びや故障の原因となります。
- 脚パイプに水や砂がついたまま脚をたたむと、重なった脚パイプの隙間に詰まってしまう、伸縮が固くなったりできなくなったりする恐れがありますのでご注意ください。
- 清掃の際はシンナー等の薬品は使わないで下さい。

アフターサービス

- 修理または部品を紛失した場合は、販売店か弊社サービス部へ直接お問い合わせください。本製品の性能部品は、製造打ち切り後5年を目安に保有しております。※この期間後であっても修理可能な場合もあります。※製品改良のため、予告なしに仕様・デザイン・諸元などを変更することがありますのでご了承ください。

ベルボンお客様ご相談センター
0551-25-6155

Velbon

ウルトラロックスアイ・エル

ULTRA LUX i L

ウルトラロックスアイ・エム

ULTRA LUX i M

ウルトラマックスアイ・エル

ULTRA MAX i L

ウルトラマックスアイ・エム

ULTRA MAX i M

ウルトラマックスアイ・ミニ

ULTRA MAX i mini

取扱説明書

便利メモ

※おぼえのため記入されると便利です。

| | | | |
|-------|---|---|---|
| お買い上日 | 年 | 月 | 日 |
| 販売店名 | | | |
| (電話) | | | |

製造・販売 サービス **ベルボン株式会社**

〒165-0027 東京都中野区野方6-1-5

電話: 03-5327-6133 FAX: 03-5327-6114

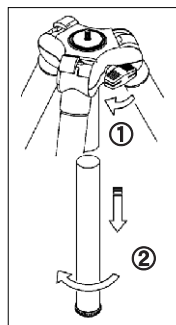
ホームページ: <http://www.velbon.com>

Velbon

正しく安全にお使いいただくため、
ご使用前に必ず本書をよくお読みください。
お読みになった後は、必ず保存してください。

脚の開閉がゆるくなった時は…

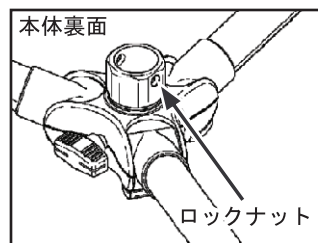
お手持ちの工具(ドライバー等)でロックナットを増し締めすることにより、脚の開閉をきつくすることが出来ます。



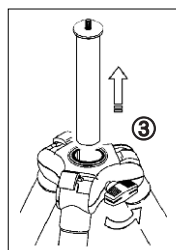
〈ロックナット増し締めのしかた〉

- ① 三脚を開いて立て、エレベーター調整ネジを締める。
- ② エレベーター下部を反時計方向に回してエレベーターを分割する。
- ③ エレベーター調整ネジを緩め、エレベーター上部を三脚から取り外す。

※図では雲台が取り外されていますが雲台は取り付けたまま作業できます。



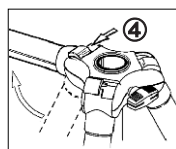
- ④ 開脚調整ノブを右端へスライドさせ、脚をローポジションの位置まで全開する。(一本ずつ順に三本とも全開します。)



- ⑤ 全開した三脚を裏返して平らな台の上に乗せ、三脚が動かないようにしっかりと抑え、ロックナットの穴にドライバー等、お手持ちの工具を差し込み、時計回りの方向に少しずつゆっくりと回す。(回す角度は約30度、時計の針で約5分の位置が目安です。)

※脚の開閉がまだゆるければ⑤の締め付けを再度行なってください。開脚固さの目安は三脚を閉じて1本の脚を握り水平に持った時、脚が開かずに保持できる程度です。

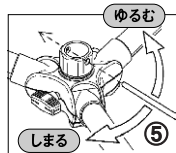
※開脚固さ調整が終わったら、③で外したエレベーター上部を上から三脚に差し込みエレベーター調整ネジを締め、エレベーター下部を下からねじ込んで連結させ、元に戻します。



⚠️ ご注意

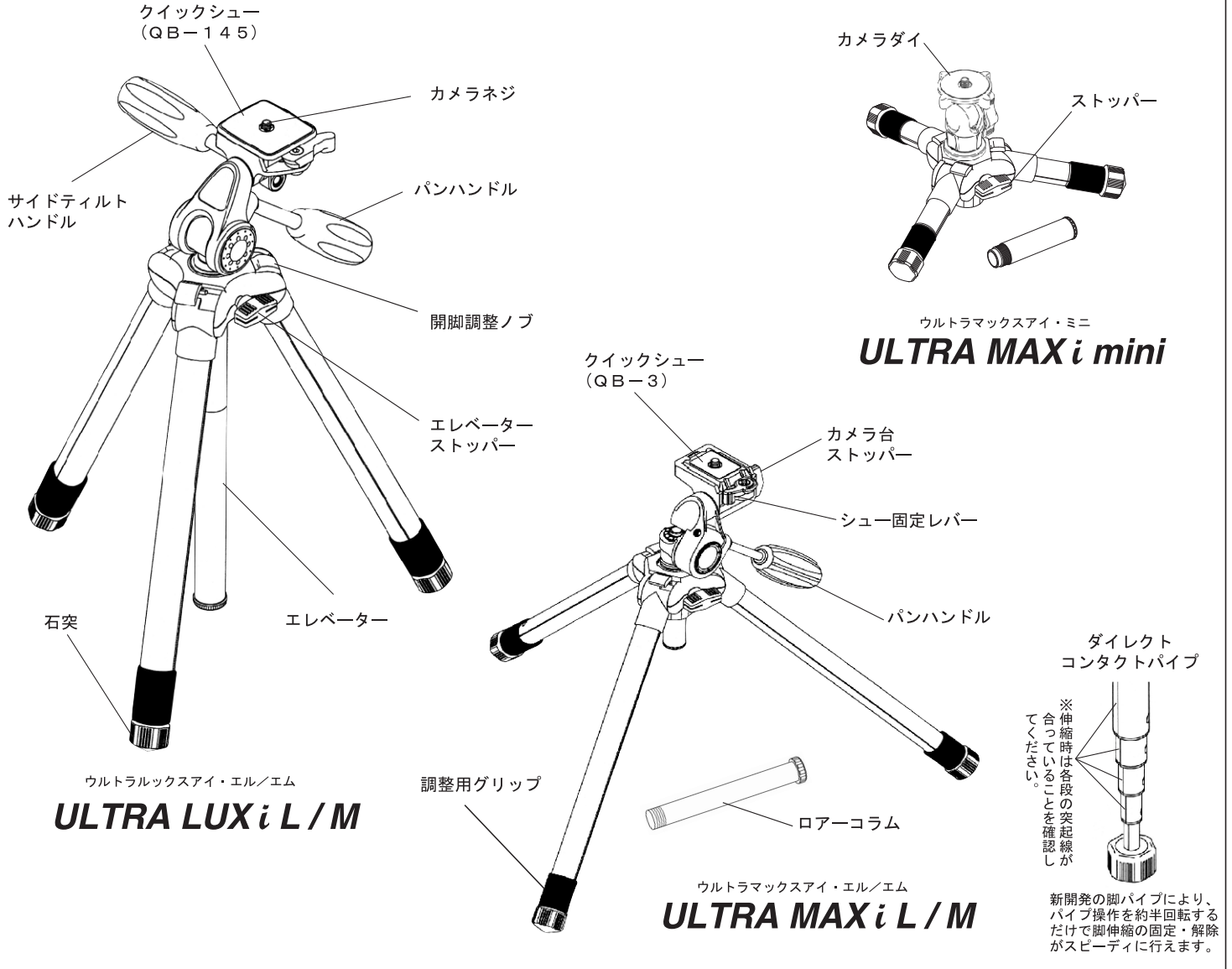
- ロックナットは無理な力で締め付けしないでください。ネジ部が破損して調整できなくなる場合があります。
- ロックナットは必要以上に緩めないでください。本体内部の部品が外れて元通りに組み立てられなくなる恐れがあります。
- 工具(ドライバー等)は必ず穴径にあった鉄製のものを使用してください。プラスチックや木製の工具を使用すると、破損して思わぬ怪我をすることがあります。
- 作業は、しっかりした作業台の上で行い、製品や台にキズが付かないよう下にタオル等を敷いてから行ってください。
- その他、安全には充分注意して作業してください。

※ご不明な点は弊社お客様ご相談センター、またはベルボンホームページ、お問い合わせフォームへお問い合わせください。



各部の名称

このたびは、ベルボン三脚をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

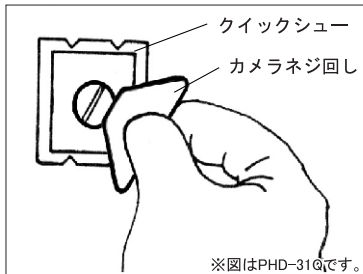


仕 様

| | ULTRA LUX <i>i</i> L | ULTRA LUX <i>i</i> M | ULTRA MAX <i>i</i> L | ULTRA MAX <i>i</i> M | ULTRA MAX <i>i</i> mini |
|-------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|
| 雲 台 | PHD-41Q | PHD-41Q | PHD-31Q | PHD-31Q | QHD-51 |
| 全 高 | 約 1,610mm | 約 1,385mm | 約 1,525mm | 約 1,385mm | 約 477mm |
| エレベータースライド* | 約 250mm | 約 205mm | 約 250mm | 約 220mm | 約 78mm |
| 最低高 | 約 190mm | 約 190mm | 約 165mm | 約 165mm | 約 136mm |
| 縮 長 | 約 390mm | 約 345mm | 約 360mm | 約 335mm | 約 195mm |
| 質 量 | 約 1,320g | 約 1,266g | 約 990g | 約 916g | 約 580g |
| 脚パイプ径 | 24・21・18・15・12.3mm | | 21・18・15・12.3・9.8mm | | |
| 最大積載カメラ質量 | 2kg | | 1.5kg | | |
| 段 数 | 5段 | | | | |
| 使用可能温度 | 0°C ~ 40°C | | | | |

※記載の数値は平均的な値です。三脚は組み合わせ部品で構成されておりますので、記載数値と若干異なる場合があります。

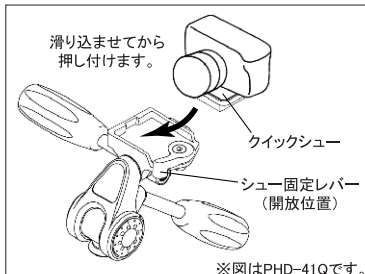
カメラの取付け方(PHD-31Q/41Q)



※図はPHD-31Qです。

カメラ側のネジ穴にクイックシューのカメラネジを合わせ、付属のカメラネジ回してしっかりと締め付けます。カメラネジ回しを紛失してしまった場合は、コイン等で代用してください。
※PHD-41Qのカメラネジ回しは、折りたたみ式になっています。

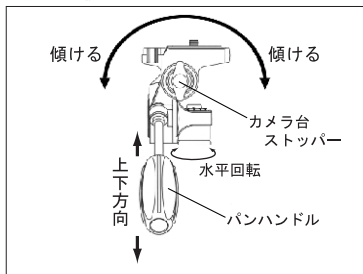
クイックシュー(PHD-41Q/31Q)



※図はPHD-41Qです。

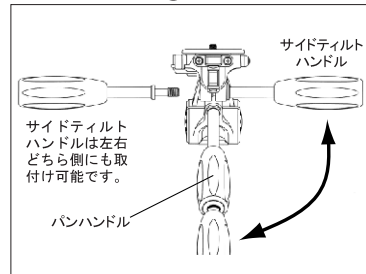
シュー固定レバーを開放位置にした状態で、クイックシューをレバー側から斜めに滑らせるように取付け下に押し付けると半自動固定されます。後は、手でレバーをしっかり締めてください。外すときは逆の手順を行ってください。

雲台の使い方(PHD-31Q)



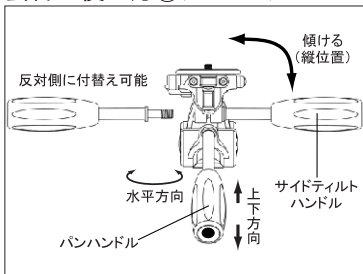
パンハンドルを回しゆるめると、カメラの上下動(ティルト)操作と同時に左右水平回転(パン)操作ができます。カメラ台ストッパーをゆるめると、左右両方向へカメラを傾ける(サイドティルト)操作ができます(必ずカメラを手で支えながら操作してください)。

雲台の使い方①(PHD-41Q)



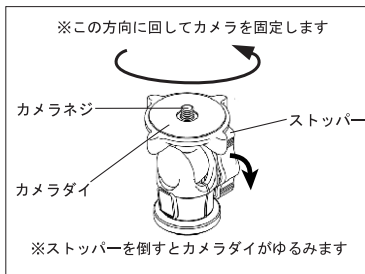
サイドティルトハンドルをパンハンドルから外しカメラダイ側面の穴(左右どちらでも可能)にネジ込んでご使用ください。ケースに収納するときは元のようにサイドティルトハンドルをパンハンドルに取付けてたたくてください。

雲台の使い方②(PHD-41Q)



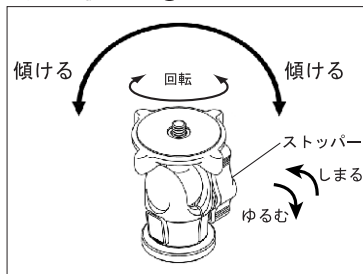
パンハンドルを回しゆるめると、カメラの上下動操作と同時に左右水平回転操作ができます。サイドティルトハンドルをゆるめると、カメラを傾ける操作(縦位置)ができます(サイドティルトハンドルを反対側に付替えることにより、左右どちらの方向にもカメラを傾けることが可能)。

カメラの取付け方(QHD-51)



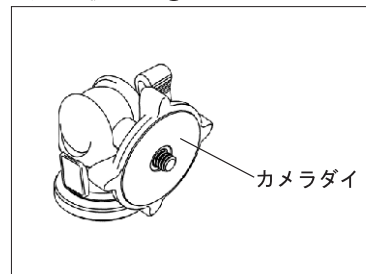
カメラ側のネジ穴にカメラネジを合わせ、ストッパーをゆるめてからカメラダイごと上図矢印方向に回してしっかりと締め付けます。
※カメラ台を垂直に倒した位置で行くと、カメラ底面が見えるので楽に取付けできます。

雲台の使い方①(QHD-51)



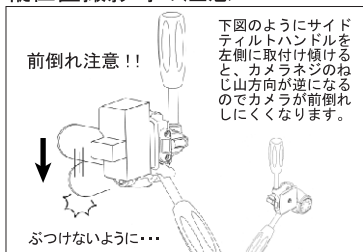
ストッパーをゆるめると、カメラの向きを自由に動かせます。構図が決まったところでストッパーを締めて固定します。
※ストッパーをゆるめる際は必ずカメラを手で支えながら行ってください。

雲台の使い方②(QHD-51)



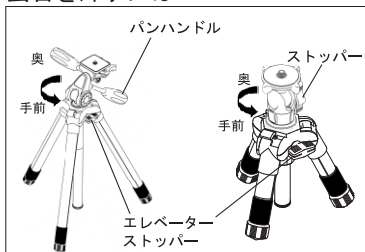
縦位置撮影の際は、カメラダイを垂直に倒して撮影します。左右両側に倒れますのでカメラのストロボがレンズの光軸より上になる方向を選んで倒してください。
※ストッパーをゆるめる際は必ずカメラを手で支えながら行ってください。

縦位置撮影時の注意



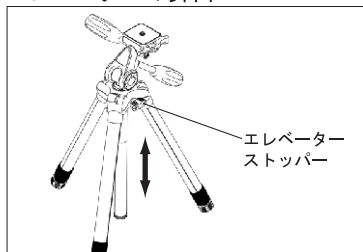
縦位置撮影の際、レンズの重いカメラ等を使用すると、レンズの重さでカメラネジがゆるむ方向に回り、カメラが前倒れして破損する恐れがあります。その場合はサイドティルトハンドルを反対側に付け替え、傾ける方向を逆にしてください。

雲台を外すには...



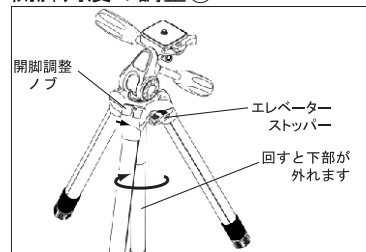
三脚から雲台を外す場合はパンハンドルもしくはストッパーと、エレベーターストッパーをしっかり締め、雲台全体を左回しに回すと外れます(矢印方向)。他の雲台を取り付ける事が可能です(雲台取付ネジは、UNC1/4サイズです)。

エレベーターの昇降



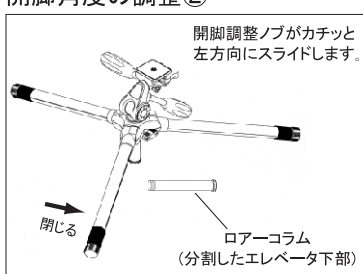
エレベーターストッパーをゆるめ、手で高さを調整します。必要な高さでエレベーターストッパーを締めて固定してください(エレベーターの操作は必ず機材を手で支えながらおこなってください)。

開脚角度の調整①



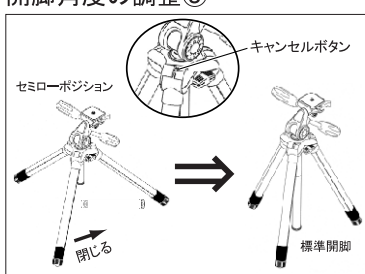
脚を折りたたんだ状態で開脚調整ノブをカチッと止まる所まで右方向へスライドさせます。その状態で脚をいっぱい開くとローポジションとなります(エレベーターは、エレベーターストッパーを締めてから下部を回すと分割できます)。

開脚角度の調整②



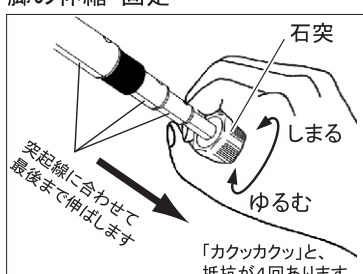
ローポジション(上図イラスト)にした脚をゆっくり閉じていくと、開脚調整ノブが自動的にカチッと左方向へスライドします。この位置がセミローポジションとなります。

開脚角度の調整③



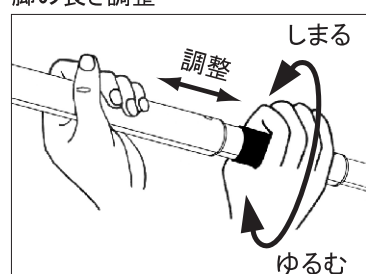
さらに脚を閉じていくと、再び開脚調整ノブが自動的にカチッとスライドし標準開脚に戻ります。なお誤ってノブをスライドさせてしまった時にはキャンセルボタンを押すことによって元の位置に戻すことができます。

脚の伸縮・固定



脚を伸ばすには、脚先端の石突を握ってゆるむ方向に「カクッカクッ」と4回抵抗があるまで回します。脚を最後まで引き伸ばし、石突をしめる方向にキツめに回して脚を固定します。脚を縮めるときは逆の手順を行ってください。

脚の長さ調整



脚の長さを調整するには二段目のウレタングリップを握り、矢印のゆるむ方向に回してから行います。調整が終わったら矢印のしめる方向へキツめに回し脚を固定します。

⚠ 石突を握る際は泥等で手を汚さないようご注意ください。石突と脚の間で指(手)を挟まないようご注意ください。また必ず機材を乗せる前に三脚を上から押さえ、脚が縮まない事を確認してください。